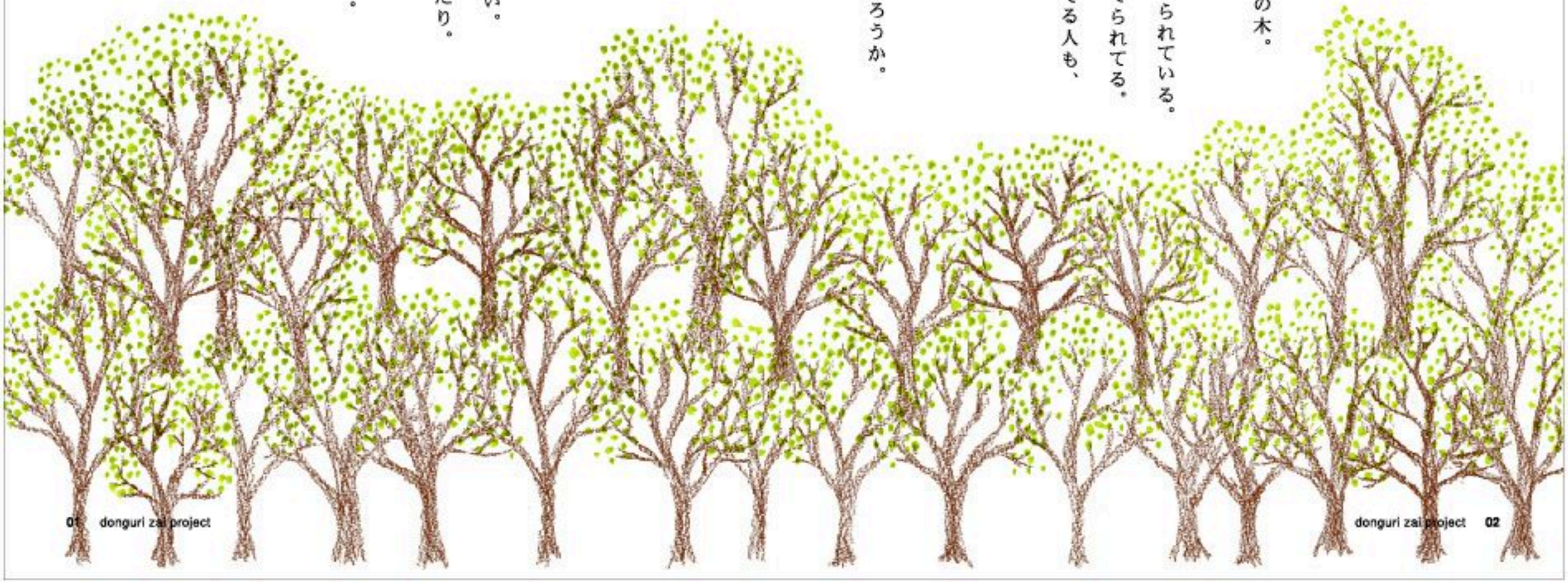
諸塚村の
どんぐり材
製品カタログ

Morotsuka Village
The catalog of
an Acorn material product

どんぐりの木。

くぬぎ、こなら。かぶとむしの木。木登りの木。
僕たちの身近にいつもいた木。
そんな、どんぐりの森があちこちで見捨てられている。
竹がぼうぼう。古いテレビや自転車が捨てられてる。
薪や落ち葉を集める人も、しいたけを育てる人も、
森で遊ぶ子供すら、みなくなった。
でも、まだ暮らしのすぐ近くに
どんぐりの森が寄り添う村がある。
そこのどんぐりの木で何かつくれないだろうか。

がっしり丈夫などんぐりの木で。
暮らしに役立つもの。
手になじむもの。
使うほど味わいがますもの。
だけど、どんぐりの木はちょっとやっかい。
割れたり反ったり節や虫食いの穴があったり。
使いこなすには手の掛かるやつだ。
お店に並ぶどれも同じような物とは違う。
ひとつひとつにクセがある。
みんな違くてみんな素敵。
みんな大事でいとおしい。



“ギュイーン、ギュイーン”、見る見るうちにクヌギの木に穴が開いていく。手馴れた手つきでしいたけの種菌を植え付けていく。奈須家は古くからのしいたけ農家。森作りから、栽培、乾燥、販売まで家族3代が協力しあいながら肉厚で香り豊かな椎茸を生産している。

「しいたけ栽培は森づくりからはじまります。ホダ木につかう原木は樹齢15年程度のクヌギやコナラの木が最適です。」はにかみながら充実した表情で駒うち作業をするまだ20代の公博さんも、椎茸栽培を受け継ぐ覚悟を決めている。

「しいたけ原木は両手でつかめるくらいの太さがちょうど良いですね。」伐採した後は萌芽更新という、樹木が自然にもつ再生能力を生かしながら、15年サイクルで繰り返し繰り返し、森を育てていく。1世代でできる仕事ではない。村では世代を超えてしいたけ栽培を受け継いできた。

諸塚村は宮崎県北部の九州山地の真っ只中にある小さな山村。急峻な山あいに、集落が点在する。ここは、しいたけ栽培の発祥の地。原木しいたけの栽培に最適の気候風土だ。けれども、過疎高齢化の波は避けられない。手が行き届かなくなった森が徐々に広がってきた。

「伐採が10年も遅れれば、大きくなりすぎてしいたけ原木としては使いにくくなります。このままではますます森に手が入らない悪循環です。」と村役場の企画課長・矢房孝広さんは言う。

「大きくなりすぎたクヌギやコナラの木を木材として活用して、手遅れになる前に森の手入れをしていけないだろうか？と思っていました。」そんな矢房さんの思いを受けて、各地の仲間が集まり“どんぐり材プロジェクト”が始まった。

どんぐり材の加工を担当しているのが、佐賀県諸富町で、家具や建築用の広葉樹材を長年扱ってきた中村製材所だ。「いまでは海外の天然林資源は枯渇してきてますし、中国の猛烈な需要もあって、日本が品質の良い広葉樹を安価に買える時代はもう終わってしまいました。同じ九州で使える材料が調達できればありがたいですし、これからは広葉樹の森も育てながら木を使っていかないといけませんからね。」と社長の中村展章さんは言う。

「でもクヌギやコナラは、内部応力が強くて、乾燥すると割れや反りなどの動きが大きく、とても扱いの難しい素材なんです。」中村さんが苦労して乾燥処理したどんぐり材が、九州各地の木工作家たちに引き継がれた。

佐賀県武雄市で工房を構えるの山上浩明さんは、「工房のすぐ近くでも里山の森が荒れているのが気になっていました。里山にある木でモノを作るというのは本来自然なことですよね。」

どんぐり材には節や割れも少なくない。でも、あばたもえくぼ。木工作家たちの丁寧な手仕事で、今まで欠点とされていたものが味のある表情として活かされている。

肥後民家村木工館　小野工房

小野　弥

1968生 57才　東京都出身。電機メーカー系サービス会社に勤務。1999年　東京都立足立技術専門校木工科にて木工を学ぶ。2000年　福岡の工房に就職。2001年　肥後民家村木工館を拠点に独立。第21、23、24、25、26、27、28回（くらしの工芸展入選
オルゴール・アート作品大賞2007 審査員特別賞

中国産シイタケの輸入が増えたことにより、ほだ木で使われなくなったどんぐり材を利用するということで、森林の保全という環境面だけでなく廃棄処分などトータルでの循環型社会の実現について考えるきっかけになればと考えています。

和樹（なごみのき）

山上 浩明

平成9年3月開房。自然との共生。自然からの恵みの豊かさを感じられる木の器やカトラリー作りにこいそしむ。

元工房（はじめこうぼう）

小川 洋子

S45.6.14生（51）。兵庫県宝塚市出身。26歳で佐賀・有田町に移り住み、鹿屋大学で絵付を勉強。半年後、伊万里ポリテクセンターでロクロの技術を習い、同所卒業時には「急須」で身を立てていくことを決め、32、33歳位の頃、佐賀・武雄にて独立。5年後に現在の神埼に移る。九州を中心に年4〜5回の個展。"ひゃくの急須展""楽しい急須展"etc。

和樹（なごみのき）

野見山 順子

2006年　岐阜県高山市　森林たくみ塾卒業。同年より2011年 佐賀県多久市 (有)くらどみ　住宅いの木工房むっく勤務。2012年より「なごみのき」山上浩明とともに活動予定。

このプロジェクトは輸入材が殆どを占める日本の木工業に風穴を開ける"これから"を考えた試みです。自分が使っているモノがどこで採れて、だれが作ったものか、そのモノの背景が分かるのって豊かなことですよね。

Cフレーム - Crack Frame - 価格8,820円
クヌギの板の「割れ」「反り」を活かしたフォトフレーム。
前板、背板とも一体クラス。壁掛け、スタンド兼用。

木工家具のアコーデオン

神武　豊

1979年生まれ。福岡県糸島市出身。インテリアデザインの学校を卒業後、家業を手伝い始める。祖父は建具、父は家具の職人。25歳頃からアコーデオンとして独自の制作活動を始める。

クヌギの板の「割れ」「反り」をそのまま活かして制作したフォトフレームです。

ランプシェード（コード長さ100mm）
参考価格10,500円

工房・日々-yori

神谷　和秀

1978年千葉県出身。品川技術専門学校にて木工を学ぶ。矢沢金太郎氏に師事。（株）ウッドユウライクカンパニー勤務。2008年4月宮崎にて、日々-yoriの木の家具を製作開始。

宮崎に住んでいるから余計に感じるのかもしれませんが、諸塚村のどんぐり材は、とても素晴らしい木材だなと感じました。

スタッキングコースター　価格720円
スタッキングできるコースターで並べても使えます。

bookMt.（ブックマウンテン）

本山 広真

1977年佐賀生まれ。上松技術専門校木工科卒業
兵庫県富岡市の家具工房で修行。福岡県大川市
の家具メーカーに勤務後2011年独立。
第6回くらしの中の木の椅子展入選
熊本くらしの工芸展2008秩野審査員奨励賞

日本の山の広葉樹が少しでも使用される事で、都市と田舎がつながり、さらに山の保全もできて行く。この活動がいろんな場所で行われるようになり、僕も作り手という持ち場で微力ながらお手伝いできたらと思います。

ティッシュケース　価格4,500円
市販のティッシュ（300枚入り）の約半分を入れて使用します。

杉の木クラフト

溝口 伸弥

1970年北九州市生まれ横浜育ち。多摩美術大学建築科卒業。設計事務所勤務を経てものづくりの道へ。

杉や竹のように身近な素材を使う気持ちの良さを、諸塚のどんぐり材にも感じ、もったいないという思いが、創作の動機になっていることにあらためて気づかされました。木の個性が生き生きとするような表現を考える中で、材料を薄く使う、箱のようなものをと考えるようになり、今回はティッシュケースにしてみました。

家具工房+雑貨　すみれの散歩道

谷口　真規

1975年生まれ　福岡県出身。オーディオメーカーにて営業職に従事。退職後、福岡高等技術専門校へ入学。木工技術の基礎を学んだ後、佐賀県伊万里市の木工会社に就職。家具・建具の製作、取り付け業務に4年間携わり独立を目指し退職。2011年家具工房+雑貨　すみれの散歩道開業。

子どもが親しみやすいように優しいラインで製作しました。子から孫へと使って頂ければと思います。

公益法人人材育成ゆふいん財団 くぬぎの学校

成田　祥二

1985年生まれ　新潟県出身。2008年から時末辰夫氏が代表を努める、大分県湯布院町アトリエときデザイン研究所に入所し、2年間の研修を行い現在、緊急雇用里山資源活用事業くぬぎの学校にて木工芸品の製作研修を行っている。

左から
しゃもじ　22cm（1,890円 ■）
サーバースプーン　26cm（2,310円 ■）
サーバーフォーク　26cm（2,310円 ■）
ターナー　26cm（1,575円 ■）
いためべら　30cm（2,100円 ■）
おたま　30cm φ8cm（4,200円 ■）カタログ表紙
仕上げ　いずれもウレタン塗装。

拭き漆ボウル（戸高朋子作）価格4,300円 拭き漆3回
パスタ皿（戸高朋子作）価格4,600円 オイルフィニッシュ

TODAKA WOOD STUDIO

戸高　朋子

1965年生まれ福岡県出身。1994年大分県湯布院町アトリエときデザイン研究所入所。2000年"家具と木の器"工房TODAKA WOOD STUDIOを開く

TODAKA WOOD STUDIO

戸高　晋輔

1968年生まれ大分県出身。神奈川県職業訓練大学校木材加工科卒北海道アリスファームにて4年間就労。1995年　大分県でオーダー家具を専門に独立。2000年　大分県九重町にて"家具と木の器"工房TODAKA　WOOD　STUDIOを開く。2004年暮らしの中の木の椅子展　入賞

材のボリュームを活かしてつくった
素朴なフォルムのスツールです。
ソープ仕上げにして、どんぐり材の
自然な色合いを活かしました。

ナラ材のスツール（戸高晋輔作）参考価格22,000円 仕上げ ソープフィニッシュ

天板の年輪が
まるでコバルトブルーの
湖に見えたので
そう名付けました。

HAMONハモン　価格198,000円（税込）

木工房 moqu c0mo

薦田 雄一

糸島の山沿いに住む「きこり」の次男に生れ、杉や桧に囲まれて育つ。林業研究クラブに所属し、間伐や体験型木工施設「トンカチ館」の補助をする。その傍ら地元の間伐材や古材、廃材などの「もったいない」に命を吹き込む。

僕の生まれ育った糸島も「杉、桧」ですが、荒廃林となって活用されなくなっています。金にならない、高齢化、農林業からの転職等で山を手入れしなくなっています。いえ、したくても出来ない状況なのです。実は実家が林業、いわゆる「きこり」なのでチェンソー等は使えるので、糸島市林業研究クラブに所属し、少しでも地元の山に関わろうとしています。糸島の木材も色んな流通をしてくれる様に願い、今回のプロジェクトに参加させて頂きました。

siéntate　参考出品
一枚の板の両端をそのまま脚に使いました。反った板を最小限に削り、厚みを残して材の個性を活かし水組という組手を用いシンプルかつ強固な家具に仕上げました。

木を加工する側としては
狂いにくく削り易い木が良いのですが、
そうも言っていられないのが現状です。
今ある材料を活かすのが
私の仕事だと思っています。

伝工房

松永 慎一郎

どんぐり材プロジェクトに
参加した作家さんの連絡先一覧

05p - 06p 小野 弈
肥後民家村木工館　小野工房
電話／090-1407-9479
hono@muj.biglobe.ne.jp
http://www5d.biglobe.ne.jp/~kikusui/
〒865-0136 熊本県玉名郡和水町江田302

07p - 08p 山上 浩明／野見山 順子
和樹（なごみのき）
電話／090-5026-7285
nagomiki@kumin.ne.jp
http://morinoutsuwa.web.fc2.com
〒843-0151 佐賀県武雄市若木川古7400

07p 小川 洋子
元工房（はじめこうぼう）
電話／0952-59-2284
〒842-0201 佐賀県神埼市脊振町広滝1303-1

09p 神武 豊
木工家具のアコーデオン
電話／092-322-7193
akodeon_aka@yahoo.co.jp
http://akodeon.jimdo.com/
〒819-1583 福岡県糸島市三雲530

10p 神谷 和秀
工房・日々-yori
電話／0985-41-9115
hibi-yori@aurora.ocn.ne.jp
www.hibi-yori.com
〒889-1602
宮崎県宮崎市清武町今泉山田甲4579

11p 本山 広真
bookMt.（ブックマウンテン）
電話／0952-86-2244
info@bookmt.net
http://www.bookmt.net
〒849-0506
佐賀県杵島郡江北町大字上小田2351-3

12p 溝口 伸弈
杉の木クラフト
電話／092-327-5040
m@suginokicraft.com
http://www.suginokicraft.com
〒819-1314 福岡県糸島市志摩師吉1015-2

13p 谷口 真規
家具工房十雑貨　すみれの散歩道
電話／090-1348-7211
sanpomichi2011@yahoo.co.jp
http://sumirenosanpomichi.com
〒879-4406 大分県玖珠郡玖珠町日出生2234

14p 成田 祥二
公益法人人材育成ゆふいん財団　くぬぎの学校
電話／0977-85-2466
planet_1799@docomo.ne.jp
〒879-5102 大分県由布市湯布院町川上3725-6

15p-16p 戸高 晋輔・朋子
TODAKA WOOD STUDIO
電話／0973-77-6960
t-w-s@oct-net.ne.jp
http://www.oct-net.ne.jp/~t-w-s/
〒879-4802 大分県玖珠郡九重町野上4284-122

17p 蔦田 雄一
木工房 moqu c0mo
電話／092-322-1422
You1ichiyou1ichi@yahoo.co.jp
http://amebio.jp/you1ichi/
〒819-1561 福岡県糸島市曽根457-11

18p 松永 慎一郎
伝工房
電話／092-809-1147
shin_play1147@yahoo.co.jp
http://denkobo.blog107.fc2.com
〒819-0204 福岡市西区草場牧原788

本カタログに掲載の
商品についてのお問合せは
諸塚村どんぐり材プロジェクト
事務局（次ページ）まで
ご連絡ください。

最後に

農林業は人と自然の営みの中にコミュニティや文化を育む生活産業です。自然の循環そのものである暮らしや仕事が山にあるのに対し、木工作家は木に向き合い木に触れ、或いは、ものづくりの技術を通して自らに自然をとり込んでゆきます。それに照らし合わせ「なぜ山の木を使えないのか？」「なぜ山は荒れているのか？」という気づきがあるのではないでしょうか。そもそも日本人がもつモノの見方は、合理的に捉えるよりも肌でわかるような、とても主観的な自然に対する感覚や、自然や風土から生まれた捉え方にあります。そこに触れ共感を得ることができれば、家具や小物が町の暮らしの中で「山のひと達のそばにあったくぬぎ」「作家さんの思いを通して自然を取り入れるくらし」というようなライフスタイルにつながるのではないかと思います。山のひと、九州の作家の思い、物を通してそれらを共有する価値、そして小規模の産業が生きていけることに価値観を見いだすこともこのプロジェクトのひとつです。

松下修／松下生活研究所 代表

このプロジェクトは、従来とは逆の「東京・表参道から森を思う」ことから始まりました。皆が安くて同じものを求めるナショナル・ブランドを求めるのをやめ、地域にある自分にとって必要なもの＝地域ブランドを選抜する時代になり、都市民が自分たちにないものを山村に求め始めたこと、商品の向こう側にあるものを見つめだしたことは、価値観の大きな転換の象徴です。
この逆転は、大量生産大量消費の価値観では時代遅れと思われていた、多品種少量生産を再評価することにもなります。お客様との顔の見える関係を活かして、値段でなく、品質で勝負する小さな経済がこれから大事になります。この小さな経済は、都会の大きなスケールで見るととても非効率に思えますが、人のネットワークでつながるヒューマンなスケールではとても融通が利いて、暮らしやすいものです。
使われている樹の育った森を感じ、育てた人、つくった職人を思うことができる家具づくり。このプロジェクトが軌道に乗るまで、今後も採算性とか、技術面など多くの課題があります。しかし、お金を超える、一番大事なものをみんなで探すことで、突破口が見えてくるはずです。

矢房孝広　諸塚村企画課長／産直住宅推進室事務局長

"諸塚村どんぐり材プロジェクト"のご紹介

「大きくなりすぎたシイタケの木が使えないだろうか？」という村の声。
「国産材の広葉樹が使いたいのだけど・・・。」という需要側の声。
プロジェクトはその両方の思いをつなげるために始まりました。

全国各地で里山の森はほったらかしになっています。竹が蔓延り、イノシシが田畑を荒らし、粗大ごみが捨てられたり。ますます人と里山の距離が遠くなっています。

けれど、諸塚村には村人と里山との共存関係がごく当たり前のようにみられます。特に原木シイタケの栽培は村の特産品。シイタケ用のクヌギ・コナラの森は15年～20年サイクルで伐採して、若い樹木の自然の再生能力を生かす萌芽更新という方法で森を育てています。

しかし、そんな諸塚村にも過疎高齢化の波はあります。手入れが遅れて大きくなりすぎた木は、重くて扱いにくいということから、シイタケ栽培には不向き。となると、ますます大きくなって、使われないまま他の里山と同じ事になりかねません。

一方、住宅や家具を作っている人たちは、広葉樹の木材が手に入りにくくなってきています。日本で使われる広葉樹の大部分が海外からきていますが、資源が枯渇してきて、なおかつ中国などの需要が増加したため、買いたくても買えない時代になってきたのです。

プロジェクトでは直径20cm以上に大きくなった諸塚村のクヌギ、コナラの木を、佐賀県の中村製材所で人工乾燥、再割加工や集成材加工します。その板を九州各地の産直木材住宅の内装や家具に使い、端材は小物品に使い、さらに端材は薪にと、余すとこなくフル活用していくべく、各種材料・製品の開発・試作を重ねながら、同時に普及のための活動を行っています。

このカタログの作品の他にも、住宅内装用の集成材、福祉施設向けのテーブル＆チェア、飲食店の店舗内装などに活用を始めています。

諸塚村どんぐり材プロジェクト
宮崎県諸塚村、フェアウッド・パートナーズ、松下生活研究所、(株)中村製材所、(株)ワイスワイス、
(株)ロジエ、生地の家' 職人ネットワーク、薪ストーブ店くぬぎの森、ユーエリアデザイン(株)

●お問合せ（商品のご購入やプロジェクト／どんぐり材についてのご質問など）
電話／03-6907-7217　info@fairwood.jp（フェアウッド・パートナーズ／中澤）
電話／096-202-4136（松下生活研究所／松下）

Morotsuka
Village
an Acorn material
Project

諸塚村どんぐり材プロジェクト

宮崎県諸塚村、
フェアウッド・パートナーズ、松下生活研究所、
(株)中村製材所、(株)ワイスワイス、
(株)ロジエ、生地の家' 職人ネットワーク、
薪ストーブ店くぬぎの森、ユーエリアデザイン(株)

本事業は、平成23年度林野庁
「地域材製品利用モデルの推進事業」の
助成を受けて実施しました。

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木材資源を
使用した紙
FSC® C017702